

# スペシャルすまいる

No. 50  
2016  
October

NIKKO City Council of  
Social Welfare

Public Relations Magazine "SPECIAL SMILE" of Nikko-Shakyo



## 小学生ふくし体験教室

～アイマスクや車いす体験、防災学習を通し助け合いの大切さを知る～  
学校の枠を超えて、新しい仲間もたくさんできました。



この広報誌の発行にはみなさまからご協力いただきました赤い羽根共同募金の配分金が使用されています。

## CONTENTS

- ワークキャンプ2016 ..... 2ページ
- 青少年ボランティアリーダー養成研修 ..... 3ページ
- 私の地域のふくし活動(落合、日光、足尾地区) ... 4ページ
- 共同募金のお願い・寄附金、義援金等報告 ..... 6ページ
- 共同募金感謝祭、小学生ふくし体験教室 ..... 7ページ
- 福祉共育シリーズ②  
「にっころ福祉“共育”推進連絡会議」... 8ページ

# ワークキャンプ2016&青少年ボラ

## ワークキャンプ2016を開催しました!

ワークキャンプは単にボランティア活動を体験することだけが目的ではありません。たくさんの人たちとの出会いを通じて、自分たちの住んでいる地域には様々な人たちが支えあいながら生きている、そんな“共に生きる社会”を身近に感じ、人を大切にする気持ちを育んでいきます。

今回で27回目を迎えるワークキャンプは、市内の福祉施設やボランティア団体などの協力を得て実施しています。

### 事前学習7月24日(日)

参加者同士が始めて出会い、顔を合わせました。

初めは緊張した雰囲気でしたが、ボランティアリーダー達が考えたゲーム(アイスブレイク)などを通して緊張がほぐれ、笑顔で楽しく交流することができました。また、ボランティアリーダーと一緒にコミュニケーションや体験学習に当たっての注意事項などについても学習し、初めは不安を感じていた参加者も、事前学習の終わりには、自信とやる気に満ちた顔つきに変わっていました!



### 体験学習7月25日(月)～8月11日(水)



この体験学習では、高齢者・障がい者施設や保育園、地域での福祉活動など16のコースに分かれて、2日間または宿泊のコースでボランティア活動を体験しました。小さい子どもからお年寄りの方まで、たくさんの人と出会い、交流を楽しみました。



### 事後学習8月12日(金)

ボランティア活動は、振り返ることによって本当の意味を見出すことができます。参加者全員で体験してきたことをふりかえり、この体験を通しての気づきや学びを、自分自身の今後へ活かしていきます。自分の住み地域での出会いや交流を通して、自分では気づかなかった“新しい自分”が見えてくる!そんな出会いをワークキャンプでしてみませんか?



# ボランティアリーダー養成研修開催!!

## ご協力いただいた施設一覧(敬称略)

今市ホーム、誠心園、デイサービスあかね、すぎなみき学園、夢の森・夢の里、愛晃の杜、並木保育園、せせらぎ保育園、原町みどり保育園、しばやま保育園、日光保育園、下原保育園、いのくら児童クラブ、おおさわふれあい活動、毎日クリスマス、国際自然大学校 日光霧降校



## 青少年ボランティアリーダー養成研修開催!!

去る6月19日(日)から8月17日(水)までの約2ヶ月間に渡って、青少年ボランティアリーダー養成研修事業を開催しました。

この研修も今年で14回目!市内の高校生15名が参加し、全6回の日程で、時には悩み、時に笑いありと充実した研修になりました。

この研修を通して、参加者からは「えっ!私にもこんなことができるんだ!」「自分は人見知りだと思っていたけど、研修の中でコミュニケーション力がついた!」など、自分自身の成長や知らない自分を発見できた様子でした。

新たな出会いから結ばれた仲間と一緒に、未知なる自分自身を発見できるボランティアリーダー養成研修。あなたも、知らない自分のチカラを発見し、地域でそのチカラを発揮してみませんか?





# 私の地域のふくし活動



落合地区

## 災害がおきる前にイメージしておくことの大切さ

図上訓練の様子



落合地区社会福祉協議会では自主防災会連合会と合同で、災害に備え地域を知る学習会を開催しました。学習会では災害図上訓練と避難所運営ゲームという、紙の上でのイメージによる訓練を行いました。

災害図上訓練では、災害発生時の初期対応や一時避難場所へ向かうためのルートを複数用意しておくことの重要性を学び、避難所運営ゲームでは避難者には様々なパターン的人がおり、避難所を運営するということが大変困難であるということを感じました。

参加者には災害時に地域を先導する方が多く、「あらかじめ困難な出来事をみんなで話し合う機会を得られて良かった」との声もあがりました。誰か1人で災害に対応するのではなく、みんなで協力し合い、助け合っていくことの大切さを学んだ学習会になりました。

日光地区

学校×地域連携プロジェクト



高校生と自治会の方々の話し合いの様子

日光地区では、日光明峰高校と高校周辺の4自治会（安良沢町・裏見台・久次良町・花石町）とで「学校×地域連携プロジェクト」に取り組んでいます。

このプロジェクトは、日光明峰高校の生徒が中心となり、地域貢献、地域交流を行っていききたいという思いから活動が始まりました。

具体的な活動については、高校生と自治会の方々が地域内にある課題や現状について意見を出し合うとともに、その課題に対して何ができるのかを話し合ってきました。

話し合いの中では、「近所付き合いが減少している」「自治会内で話す機会が少なくなった」といった地域内の交流の機会や場に関する課題が挙がり、それに対する活動として「サロン活動」を行っていくことになりました。

今後は、サロン活動の実施に向けた準備に取り組んでいきます。

「学校×地域連携プロジェクト」はまだ始まったばかりですが、この活動が日光地区における地域福祉活動の発展につながると感じています。

足尾地区

安心して暮らせるまちを目指して

視覚障害、病気等の事情をもつ避難者



実践と体験を通じて、避難所の「困りごと」を知る研修会

平成28年7月26日、足尾地区社会福祉協議会では、足尾小・中学校、日光市、自主防災会と共催で、災害・防災研修会を実施しました。災害が起きたら避難所はどうなるのか？避難者の中には様々な事情をもつ方もいます。また食料・水分も十分な量が無いかもしれません。実際に起こりうる「困りごと」を知ることが本研修会のねらいです。

混乱する避難所、皆で知恵を出し合い解決へ

パニックになる認知症高齢者と家族が避難所運営役員にたづなを訴えました。また少ない水をどう配布するか等の問題も発生しました。教師、自治会役員等、様々な立場の人が同じテーブルに座り、解決策を話し合いました。研修会を終えて「参加しなかった人にも様子を伝えるべきだ」「繰り返し訓練をする必要がある」との意見がありました。安心して暮らせるまちづくりのきっかけになるような研修会でした。



運営会議の様子



# 共同募金運動

## 赤い羽根募金 + 歳末たすけあい募金

10月1日から全国一斉に始まる共同募金運動は、今年で70回目を迎えます。

戦後間もない1947(昭和22)年、戦後復興の一助として市民が主体となり共同募金運動が始まりました。その後、時代の要請にあわせて、子供の遊び場や障がい者の小規模作業所、高齢者への在宅福祉活動などさまざまな福祉に役立てられてきました。

日光市では、戸別募金、法人募金、学校募金、イベント募金など多くの募金活動を実施します。

集められた募金の約70%は、日光市内の福祉育成に役立てられます。

「じぶんのまちをよくするしくみ。」の共同募金にご協力をお願いします。

**目標額 ¥17,666,000**

**ご協力をお願いします。**



### 寄附報告 平成28年6月1日～平成28年8月31日

(一般寄附) 順不同・敬称略

取扱	寄附者名	金額(円)
本所	宝光宝上カラオケ愛好会歌謡祭	100,000
今市	日光グラウンドゴルフ協会	15,322
今市	小野 ヨシエ	20,000
今市	栃木県歌謡協会 日光支部	10,000
今市	公民館ふれあい教室	1,600
足尾	日光市林業振興会足尾支所	7,744

(香典返し) 順不同・敬称略

取扱	寄附者名	金額(円)
本所	田邊 和仁	50,000
藤原	阿久津 亮太	100,000
藤原	鎌田 光一	20,000



ご寄附していただき、誠にありがとうございます。

#### 日赤募金(社資)へのご協力ありがとうございました

募金総額は

**9,959,200円**

お寄せいただきました募金は、日本赤十字社に全額送金し、次のような赤十字活動に役立てられます。

- 災害救護
- 講習普及事業
- 国際救護活動
- 社会福祉事業
- 看護師養成
- 青少年席赤十字活動
- 医療事業
- 血液事業
- 赤十字ボランティア活動

#### 「熊本地震災害義援金」のお礼と中間報告

8月31日現在 **累計額 3,626,458円**

お預かりした義援金は全額、日本赤十字社栃木県支部に送金をさせていただきました。(日本赤十字社を通じ被災地に配分されます。)

☆義援金受付期間：平成28年4月18日～平成28年12月28日

☆募金箱設置・受付窓口：日光市役所市民課、各行政センター市民サービス係 社会福祉協議会本所、各支所(栗山支所を除く)

熊本地震災害義援金協力者名簿(敬称略、順不同) ※掲載承諾者のみ

地域	名称	金額(円)
今市	沢又自治会	17,500
	平成町自治会	15,725
	朝日町自治会	16,250
日光	スポーツコミュニティー日光守る会	25,681

報告

# 赤い羽根共同募金感謝祭

8月7日(日)



## 「じぶんのまちをよくするしくみ。～あなたのやさしさが、町を変えるはじめの一步～」

活動発表・パネルディスカッションでは、共同募金の助成を受けた NPO法人ふれ愛の森、NPO法人はばたき、霧降自治会から取り組みについての報告後、NPO法人明日育 長井 一浩氏とともに共同募金の役割や福祉活動について意見を深めました。また、小学生を対象としたワークショップ「自分だけの募金箱を作ろう!」では、個性豊かな募金箱がたくさんできあがりしました。

### 参加者の声

- 地元で集まった募金は、地元に戻元されることがわかりました。
- 赤い羽根共同募金のだいじさが理解できました。
- 「困ったときはお互い様よ」が長続きすることができるよう、地域の中で努力していきたいと思います。住み良い社会作りができるようがんばりたい。
- 発表団体の取り組みがよくわかり勉強になった。
- コーディネーターの「赤い羽根共同募金は迷子にならない募金です。」との言葉が大変印象に残りました。

## 小学生ふくし体験教室 障がい者との交流体験&防災体験

～みんなで“楽しく”福祉を学ぼう～ H28. 7. 23 (土) & 8. 7 (日)

子どもたち自身が障がい者交流や地域防災などの「体験」を通じ、福祉を身近に感じ、助け合う社会づくりや地域福祉活動に参加することの大切さを深めてもらうため、小学生ふくし体験教室を開催しました。

アイマスク体験をしてババ抜きをし、視覚に障がいがある方の大変さがわかりました。



正しい車いすの乗り方や介助の仕方を教わりました。

災害が起きた時の対応の仕方について学びました。



## 体験後の子ども達の感想です。

- お仕事中にバックをつけていたら、盲導犬に触らない。道に書いてある点字ブロックの上を歩かない。
- 目の不自由な人のことをいろいろ知れたから、いろいろなことを手伝えるようになって良かった。
- あらかじめ防災グッズを用意しておいて逃げられるようにする。
- 車いすに乗り、貴重な体験ができて良かった。



参加された皆さん

日光市社会福祉協議会では、地域の担い手を育む福祉教育(共育)推進の一環として、地域や学校におけるボランティア・福祉教育活動を推進しています。今回は、福祉教育やボランティア学習のあり方について協議するとともに、各関係機関のネットワークを通して情報交換・共有することを目的として開催している「にっこう福祉“共育”推進連絡会議」の取り組みを紹介します。

## Series.2 にっこう福祉“共育”推進連絡会議

### 事業の概要

6月28日(火)、平成28年度「にっこう福祉“共育”推進連絡会議」の第1回目が開催されました。

今回の会議では、「ボランティア活動推進校事業(※1)」を活用し、学校における福祉教育・ボランティア学習の推進に取り組む市内小・中学校及び高等学校、日光市教育委員会事務局(学校教育課・生涯学習課)、そして、市内各地区を担当する社協CSW(コミュニティソーシャルワーカー)が参加し、今年度の担当者同士の初顔合わせと各学校で取り組む活動計画の共有を行いました。

また、今回は、「ボランティア活動推進校事業」助成金の原資である「赤い羽根共同募金」についての理解を深めてもらうため、栃木県共同募金会・池田 秀昭氏をお招きし、共同募金の目的や概要についてのお話をいただきました。

「にっこう福祉“共育”推進連絡会議」は、平成20年度から始まり、今年度で9年目を迎えます。今後も、市内学校における福祉教育・ボランティア活動の更なる推進を目指し、様々な働きかけや取り組みを話し合っていきます。



### 平成27年度の取り組み

平成27年7月3日(金)  
にっこう福祉“共育”推進連絡会議(第1回)



#### 【内容】

- 平成27年度「ボランティア活動推進校事業」について
- 各学校における活動計画の報告
- 講話「日光市における福祉ボランティア団体の活動」  
(講師:日光市福祉ボランティア団体協議会  
会長 黒川 貢氏)

平成28年3月15日(火)  
にっこう福祉“共育”推進連絡会議(第2回)



#### 【内容】

- 講話「福祉教育に求められる視点や考え方」  
(講師:四天王寺大学 吉田 祐一郎氏)
- 実践活動の報告  
①今市第三小学校「防災マップを作ろう!」  
②足尾中学校「日光みらい科」
- グループワーク  
「福祉教育推進において重要なモノとは」

#### ※1 「ボランティア活動推進校事業」

地域福祉の向上を目的とした市内小・中学校及び高等学校が行うボランティア活動促進・福祉教育推進事業への支援を目的に、各学校における対象事業に対し助成金を交付しています。今年度は、市内45校の内、過去最多の36校から申請がありました。